



プロバスケットチームとレモネードスタンドで小児がん支援を ぐんま国際アカデミー #yellowforthefuture



#yellowforthefuture メンバーの坂本圭杜さん(高1)、大島 菜子さん(高3)、平間千愛さん(高3)、松岡慶さん(高1)。
中央はJCCGの河崎裕英医師。

6月12日、太田市のぐんま国際アカデミー(小中高一貫校)で、同校中高生が主体のレモネードスタンド活動で集めた寄付の贈呈式がありました。

この活動は、2021年に「コロナ禍で入院中の子どもたちは会いたい人にも会えずに闘病をがんばっている」と知った同校の高校生が、「入院が長くなることも多い小児がん治療中の子どもたちを支えたい」とプロジェクトチーム「#yellowforthefuture」を立ち上げたことが始まりです。地元のプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」などの協力を得て、活動は4年目に。今シーズンは、群馬クレインサンダーズのホームゲームにて15回のレモネードスタンドを開催し、集まった約53万円の寄付目録を、JCCGの河崎裕英医師(群馬県立小児医療センター)に手渡しました。



報告会では、成果発表だけでなく今後に向けた課題検討も。活動は後輩に引き継がれます。

プロジェクトメンバーは、「シーズン開幕日に『今年も出してくれているのね』と声をかけてもらい、活動が根付いてきていることを実感でき嬉しかった」「3本以上お買い上げの方に、サンダーズ公式マスコットのサンダくんステッカーを配布する工夫は好評だった」などとやりがいを語り、河崎医師は「みなさんのおかげで小児がんという病気を身近に感じ、応援してくださる方も増えている。我々の励みにもなります」とお礼を述べました。群馬クレインサンダーズの阿久沢毅社長は、「みなさんが自ら始めたこの活動をこれからもぜひいっしょに続けていきたい。全国にひろげていく気持ちでやっていきましょう」と来シーズンへの抱負を語りました。



レモネードスタンド活動とは…アメリカで小児がんにかかった少女が庭先でレモネードを売り、集めたお金を治療研究に寄付したことがきっかけでひろまった募金活動。“If the life gives you lemon, make lemonade. ~酸っぱいレモンのような苦境が来ても、甘いレモネードをつくればいい~”という言葉もあり、レモネードは小児がん支援を象徴する飲み物です。

レモネードスタンドに興味を持たれた方は、ぜひ「JCCG レモスタ」のホームページをご覧ください。

実施方法、実施例もわかりやすく紹介しています。

